

2024 年度学位授与式理事長祝辞

卒業生、修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

学位の取得とともに新しい門出を迎える皆さんは新型コロナ禍の経験や様々な困難を乗り越えて今日を迎えていることに敬意を表します。それを支えてくださった御父母、保証人、ご関係の皆様にも心よりお慶び申し上げます。

上智大学は建学以来、「他者のために、他者とともに」という教育精神を掲げ、すべての人の尊厳を大切に、知識と心の調和を目指す教育を続けてきました。この精神は、現代社会においてますます重要な意味を持っています。分断や対立が広がる時代に、私たちには違いを超えた理解と共感、そして正義に基づく行動が求められています。

上智大学での学びは皆さんを知的にも人間的にも成長させているでしょう。

さて、上智大学での学びを何に例えましょうか。聖書を参考にしてみると、それは「からし種」のようなものであるように思います。（マルコ 4 章 30～32 節）によると「土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」。皆さんは在学中にそういう種のような言葉あるいは経験を受けていると思っています。最初は見えない。しかし、芽吹いた種は時間をかけて育ち、ある日、花が咲くと確信をもって言えます。

上智大学での学びや経験は、単なる知識やスキルに留まらず、他者を思いやる心と社会への貢献を育むものです。その中で特に大切にしていきたいのは、自らの専門分野における卓越性を追求する一方で、常に「人々の幸せのために、自分の力をどう活かすか」を問い続ける姿勢です。

社会の分断や排他的な傾向もある中で、上智大学が大切にしてきたヒューマニズム教育やダイバーシティ教育を受けてきた皆さんに二つのメッセージをお伝えしたい。まず、「多様性を認める」人になってください。多様性を認めるとは、相手の生き方を我慢して受け入れるということではありません。自分の生き方も相手の生き方もそれぞれ素晴らしいと気づき、互いに学びあいながら成長していく、それが多様性を認めるということなのです。同じ花を見るにしても、どの角度から見るとによって、全く違った美しさが現れます。人間を見るときもそれと同じ。視点を変え、あらゆる角度から相手を見れば、きっと違った美しさ、思いがけない良さを見つけ出せるに違いありません。

もう一つは「誠実な人間」になってください。これから皆さんは、それぞれの道で新たなチャレンジをしていくことでしょう。その道は決して平坦ではなく、ときに困難や試練に直面することがあるかもしれません。しかし、そのようなときこそ、上智で培った価値観と学びを思い出し、誠実にそして勇気を持って進んでいただきたいと願っています。

2012 年 12 月にスペインのナバラ州で行われたクロスカントリーレースで、スペイン人ランナーのイワン・フェルナンデス・アナヤが、ケニア人レーサーのアベル・ムタイを勝利に導いた場面は世界の人々に感動を与えた瞬間として私も覚えています。

ムタイはロンドンオリンピック 3000 メートル障害競走の銅メダリストで、このときのレースで先頭を走り優勝を目前にしていたのに、約 10 メートル手前で、ゴールラインを越えたと勘違いして走りを止めてしまいました。ムタイから少し離れて 2 位にいたアナヤは、この状況を見て逆転勝利のチャンスとムタイを追い抜くどころか、何とジェスチャーを使いながらムタイをコースに戻し、先にゴールさせたのです。アナヤは、競技では 2 位でしたが、誠実さという意味では優勝だったと思います。

多様性を認め、また誠実な人として「他者のために、他者とともに」生きるリーダーとなることが期待されています。社会の中で課題を見つけ、行動することで、新しい未来を切り拓く存在となってください。皆さんの行動と志が、周囲の人々に希望と変革をもたらす力となることでしょう。

改めて、ご卒業おめでとうございます。

2025 年 3 月 24 日

学校法人上智学院理事長 アガスティン サリ